ホワイト・イーグルは言っています。

地上 な人 自 眠 分 0 々 ŋ 0 天空体 では に就 兄弟の中 素晴ら なく、 をキ 時 しく で、 は IJ 緊張し Ż くつ IJ 体を安楽に ト光 ´ラッ て眠って ろ のオーラで満たすようにして下 11 クス だ、 Ļ の仕方を知っ 平和な、 いる体や、 心を静 天の至福にう かに落ち 張り詰 7 1 る者は めた顔ば 着けて っとり ハスト ほ 下さ とんどい かり 11 が見えます。 てい そし ません。 るよう 7

を積 こと に強 とになるのです」 う優雅な記憶を伴 で、 む る す ことになります 印 0 ることに 眠 象づ です。 ŋ ゖ 方を学ぶことで、 する 5 ょ ħ 0 つ と皆さんは霊的 て目覚めることでしょう。 る て皆さんは、 ので、 また、 朝には、 皆さんは 地上生活 肉 .体か な体験をすることになります。 何 かしら らより 0 束縛 神 0 啓示 この 素晴 か 高 Ġ 11 睡眠 世界 自 5 神の 5 由 のため へと脱 ことが なる練習を積 光明を受け 0) 出 準備をす 起きたと す そ Ź る n 進 むこ は 練

を知 彼らは、 き物と友愛精神のうちに相和 しまし 遙か昔の時代の 0 7 思考は いたからです。 彼 5 は自分の考えをその 物 質的 イン デ 肉体的な生活や幸福に計り イ T シは、 て、 目覚め 友愛精神の できる限り の瞬間 中に留め置こうとしました。 健康に、 から眠 知れ ない影響を及ぼす、 か h 0 0) 自然に、 瞬間まで、 生活、 他 のあらゆる生 というのも、 ということ ようと努力

ホワイト・イーグルは言います。

を。 大切な b 0 ので、 です。 子を合わ は、 で す それは磁石のように、 聖なる神 忘 から皆さん 0) せな れな は らくては 11 食物ばかりではあり 0) でください は、 神 -殿であ なりません。 な んであれ善い ŋ ٠, 自ら自覚した状態や力を自分に引き寄せます。 、そ 皆さんの 人の生命とは宇宙の の内には ´ませ もの 体 $\bar{\lambda}$ Ŕ 神 皆さん 善い 肉体 が 住 λ 波動·高 の考えや • 幽体・ で 力が おら 1 人生観 れるとい 精 一点に集中した 波動 神 0 も重要な b 天空体 うこと のに、

造り 皆さ た振 皆さ 自身 人に 下さ 0 0 て下 動 直すことができます」 6 11 考えによっ ります。 胞団 します。 愛を思 工 自分 体 のた テ 神は 皆さんの進歩 8 の考えるもの 自分 7 生に 上に 0) あ 愛の 仕事を開始 6 0 一定の状態を造りだすのです。 印象され、 -考えの力によっ \wp 考えが善と美から成り立 人にな るも は、 に成るのです。 元して下 のを考えによ つ 皆さん自身の考えから始まる て下さい。 それ相応の波動や力を引き寄せ、それが らな 7 皆さん もしも調和を考えれ 善い事を考え、 つ -自分の て創造したの 一つもの の考えによって動きだ 体 毎日善い事を考えるこ であ 人生・幸福 善が です。 るよう、 のです。 人であ 人も自分 注意を つ

光十 生の 字 あ 7 6 11 も自分の考えを神に向けておくように。 VΦ 同 るのではありません。 る 胞 面 団 に、神・善を見るようにと。 は古代のイン デ イア むしろ、 ンたちに、 あらゆるところに、 それ 確 は非 起こったことすべてに、 かに教 現 実的 え論 に生きることを しま 全ての事態に、 した。

でもそのような考え方をしたので、 ても常に、 のです の手・神 その の愛の働きを見る、ということなのです。 中に建設的な、 幸運な、 彼らは幸せに、 希望の側面を探 イ 平和に暮らすことができ ンデ し出 イア しました。 シは 何 が 0 つ

会ったうちで、 ような無邪気な笑顔でい ア ディアン メ 実際、 ij 力 彼らは陽気な人々で、 は冷たく、 例外なく、 ンディアンからの福音』 つも笑いださんばかりです……インディアンは、 鈍感で、 習慣的に最も幸福な人々です」 陰気な連中だという一 気立てがよく、 の中に、 次のような文章があります。 茶目 0 般の信念は、 気があって、 全く間 子供を思わ 私がこれまで 違 つ せる 7

ホワイト・イーグルは言っています。

私たち ませんでした。 は皆さんに一度さえも、 神が皆さんをこの世に置かれたのは、 悲し み 0 衣を身に つけよ、 皆さんに喜びと幸 と言 0 たことは

159

を負 で 下 を摂 感覚器官が正 した。 さんに美し を与えるた 0 さ 0 て下さ 皆さん て 下 7 61 61 生きる方法なのです」 さい めな る生命の 11 人生のすべ 体を与え、 しく作用することによ 0) 食物を食べる 人生を楽しんで下 のです。 休養や娯楽を楽しんで下さい 源泉である神だけは 7 その 神は皆さんを美しい の贈り物を楽しんで下さい 0) *)* \ を楽 . らい。 トに至福の境涯 しんで下さ って素晴ら 幸福 決し であ て忘れな 0 11 あ 13 11 つ 0 6 汚れ 置か て下 入るため 感動を味 ゆる形 ただし、 いで下さい。 のな さい れた 0 0) 11 のです。神 わえることに の鍵を置か 清ら そし 皆さんが全 運動を楽 これが生 かな食物 て、 れ 感 7 ま

霊の 下さい 生命 て下さい れたことに感謝し、 を愛して下さい。 内に生きて下さい ただし、すべてに勝って、 また同じく、 天の父を讃えるように生きて下さい あらゆるものを愛して下さい。 霊によって生き、 創造主-完全なる一者-父母なる神 /\ トを愛で を愛して下さい 天のキリ すべ 11 っぱ 7 11 0) Ź ト K 々 て下さい を愛して 自分が造 を愛し

すべ できるでしょう」 上生活を送る間じゅう、 7 \mathcal{O} 生命と完全に調和 肉体という乗り物を完全に健康なままに保 して友愛のうちに生きることができれ ば つことが 人は

158